

## 第 4 学年「理科」の学力向上のための方策

### 児童の実態（成果と課題の分析）

- 成果**
- 理科学習を肯定的に捉える児童の割合が 95%を超え、意欲的に学習に取り組む児童が多い。
  - 思考力・判断力・表現力の向上の途にある。
- 課題**
- ▼ 対話等により思考を練り上げる力や、自分の学びを見通し、振り返り、調整する力の個人差が大きい。
  - ▼ **学びを日常生活の中で活用する意識や態度が、十分ではない。**
  - ▼ 自然科学体験の個人差が大きく、学習活動の中で担保する必要がある。

### 指導の重点（身に付けさせたい力）

- ◇ 問題解決に資する科学的な見方や考え方を、学校として系統的に確実に育むこと。
- ◇ 自然科学に関する体験や探究を充実させ、その有用性の意識化・態度化を図る。
- ◇ 理科に対する自己肯定感（曖昧な自信）を醸成する。（「やっっちゃえ」の拡充）
- ◇ 教科担任制の推進に鑑み、学校全体の評価精度（基準・方法など）の向上を図る。

### 具体的な改善策

#### 主体的に学習に取り組む態度のための工夫

- 単元や時間の自己の学習問題を明確に意識させ、自分事として解決するスパイラルを進める。
- 「見通し」や「振り返り」をより意識化させ、自己学習力の伸長を促す。

#### 言語活動の工夫

- 学びの発信を通して、コミュニケーション力及びプレゼン能力を育む。
- 文字や表、グラフ、情報を活用した「思考の見える化」を進める。

#### ICT活用の工夫

- 児童の学習ツール、特に思考・表現のツールとしてその活用を図る。
- 「振り返り」や「探究学習」の場面で、情報活用の機会を積極的に設定する。

#### 課題解決力育成の工夫

- 学習過程の構造化と見える化を進める。問題解決スパイラルの徹底を図る。
- 対話や思考ツールを活用して、ロジックを確認し高める取り組みを進める。
- 理科学習の基礎となる自然体験の一層の充実を図る。そのために、新たな教具の利用や一人一栽培・一飼育活動の展開、校外学習のカリキュラム開発を進める。

### 達成目標

- 学習指導要録の評価において、A 評価の 2 割向上を図る。
- 各種学習調査において、全国比 5 ポイント超を図る。
- 理科学習を肯定的に捉える児童の割合の 10 割達成を図る。